

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校 (定時制の課程)	校長名	櫻井 教文
------	----	-----	------------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り (ア) 挨拶の励行「挨拶は、人に好かれる魔法の言葉」 (イ) 積極的な交通指導と校内巡視 (ウ) 生徒会活動の活性化 (エ) 学校生活のルール・マナーを徹底 (オ) 施設、設備の安全管理の徹底	登下校を含む学校生活における重大事故発生件数0件	・重大事故発生0件 ・交通事故発生1件 (自転車と車の接触)	B	・交通講話（御殿場警察署）二輪車グッドマナー教室（御殿場自校）を通して、交通安全の意識を高めることができた。 ・免許取得者の増加（特に自動車）を踏まえ、今後も交通法規を遵守させる。
		いじめ、恐喝、窃盗の発生0件	・いじめ、恐喝、窃盗の発生0件	A	・多くの生徒が規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・学年間でのコミュニケーションを取る回数を増やし、関係性を向上させ、生徒間トラブル・問題行動を未然に防止していく。
		「授業・生活アンケート」の主体的行動、生活態度の項目における肯定的自己評価90%以上	・肯定的な自己評価91.7% 遅刻欠席時の連絡（前年比10%増）、教室ロッカーの整理（10%増）、信頼して相談できる友人がいる（4%減）	A	・日常生活で課題を有する生徒については情報交換会等で個々の状況を把握し、改善に繋げたい。 ・欠席遅刻の連絡徹底、安易な欠席の防止、授業規律向上・確立はすべての生徒に継続的に指導していく。
		ソーシャルメディア利用に関する注意喚起(各学期1回以上)	・各学期終業式で実施	A	・ソーシャルメディア関連で大きなトラブルはなかった。今後も継続して注意喚起を行っていく。
イ	基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成 (ア) 生徒一人一人の学力の把握に努め、基礎基本の定着、問題解決を図る姿勢の育成	授業アンケート評価10項目全てで肯定的評価95%以上	・10項目中9項目で肯定的評価が95%以上 (残る1項目についても94%と、概ね目標を達成する結果となった。)	A	・全体的に落ち着いた雰囲気の中で、生徒は集中して授業に臨んでいる。 ・「欠点」を取ってしまう生徒に対する継続的な支援を引き続き行っていく。

様式第3号

	<p>(イ) 検定取得を推奨 (ウ) 学習支援員等による授業外での学習支援 (エ) 生涯学習の基礎作り</p>	<p>生徒全員が2種以上の検定を受験</p>	<p>・生徒全員が2種以上の検定を受験</p>	<p>A</p>	<p>・合格率は高いとは言えないものの、検定に対する取り組み状況は良好である。今後は、上位級への挑戦につなげる指導を行っていく。</p>
ウ	<p>勤労観と自ら進路を切り拓く力の育成 (ア) ハローワークや地域の関係機関と連携し、キャリア教育を充実 (イ) 地域の人材等を活用し、地域の産業や課題について学ぶ機会を充実 (ウ) 進路行事を4年計画で再編成</p>	<p>進路決定率 100%</p>	<p>・卒業予定者8名中、進路決定者は、8名。</p>	<p>A</p>	<p>・進学・就職ともに、学校が見通しを立てたスケジュールどおりに指導を行うことができた。生徒が早期に動き出せるような働きかけを継続していく。</p>
	<p>(イ) 地域の人材等を活用し、地域の産業や課題について学ぶ機会を充実 (ウ) 進路行事を4年計画で再編成</p>	<p>進路行事を年間3回以上実施</p>	<p>・外部機関と連携し、進路行事を各学期1回実施した。 ・地元企業を招き、「キャリアミーティング」を実施した。</p>	<p>A</p>	<p>進路行事を通して、生徒が自身の進路について考えるきっかけとなった。今後も引き続き、地元企業と連携しながら、進路行事の充実を図っていきたい。</p>
エ	<p>家庭・職場・地域からの理解、協力を得られる情報発信 (ア) 教育活動の内容や行事についてホームページ（以降、HP）を活用しての情報発信</p>	<p>HP毎月の更新1回以上</p>	<p>・今年度51件の記事を更新している。 （昨年度26件） 件数25件増 （前年比196%増）</p>	<p>A</p>	<p>・リアルタイムでの更新が年間を通じて行うことができ、生徒のインプレッションが非常に高くなった。生徒の笑顔を引き出すことが課題である。</p>
オ	<p>組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進 (ア) 組織力を高めるための充実した校内研修の計画立案 (イ) 分かりやすい授業のためのユニバーサルデザインの考え方やICTの活用方法の共有</p>	<p>研修内容は適切だったか、意思の共有ができたかについて職員アンケートを行い、肯定的な評価90%以上</p>	<p>100%の教員が肯定的評価</p>	<p>A</p>	<p>・今年度研修（一部）：「スクールポリシーを意識した授業改善」（総合教育センター訪問時）、レクリエーション研修（モルックの授業での活用）、ICT教材を使用したコンプライアンス研修等を定期的に行った。</p>
カ	<p>ワーク・ライフ・バランスを意識した業務の推進 (ア) 教材研究や情報交換の時間の確保 (イ) 休暇取得の推奨 (ウ) 自己研鑽や心身のリフレッシュによる教育効果の向上</p>	<p>夏季休業中の休暇取得5日以上、年間10日以上</p>	<p>教職員9名中8名が達成。</p>	<p>B</p>	<p>・今年度は夏季休業中の休暇取得促進日（8/13～15）に加え、時差勤務が実施され、これらを有効に活用し、すべての教職員が休暇取得できた。 ・年間10日以上についても、概ね達成できているが、これをいかに教育効果の向上につなげていくかは課題となる。</p>

様式第3号

		<p>「生徒と向き合う時間」、「指導準備時間」が増えていると感じる教員の割合 80%以上</p>	<p>「非常によく達成されている」「概ね達成されている」が 94%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内での業務分担の見直し等を継続して行う。分掌業務以外にも個々の教員の抱える業務は多岐に渡る。継続して、整理していきたい。 ・今後も継続的な声掛けや、長期休業中の休みの取得などを勧め、職員間の雰囲気涵養に努めたい。
--	--	--	---------------------------------------	----------	--